

大阪代協。黒石会長がネパールの小学校へ援助

若い時代の渡航がキッカケ

机、イス、トイレの建設費など寄付

大阪代協の黒石光寿会長は、昨年12月27日、ネパール山間部の貧しい村にあるルトーカ小学校を訪れ、子供たちに文具とお年玉、学校に机やイス、屋根の修理および新しいトイレの建設等のための援助を行った。この活動は、大阪代協や阪神ブロック、あいおいニッセイ同和の代理店会の有志の協力を得て黒石会長がプライベートで行っているもので、今回が5回目の援助となる。

黒石会長がネパールでの援助を始めることとなったキッカケは、40年前の23歳のときに遡る。バックパッカーとして約1年半にわたりネパールやインド、オーストラリアの山々をトレッキングする中で、ネパールの魅力に惹かれ同地のアパート



大歓迎を受ける黒石大阪代協会長(中央)

で1か月滞在したことが、深いつながりとなった。その後、3、4年に1度の割合でトレッキングをしにネパールを訪問。数度の渡航のうちに小学校のPTA会長をしていただいた弟・博文氏との会話の中で、「せっかくなので、だから現地の子供たちへ何かお土産を持って行ってあげよう」という話が持ち上がったのが援助活動の始まりとなった。

「ネパールでは政府の手が届きにくい地域がたくさんあります。それまでもトレッキング中に寄って来た現地の子供たちにお菓子をあげたりしていましたが、もっと何か手助けできないかと考えていたときでした」

身近な人たちに声をかけると、衣類などダンボール箱4つがいっぱいになるほど集まった。15、16年前のことである。「とにかく一番貧しい学校へ援助すること」が黒石会長の目的だ。援助先の選定は、日頃世話になって



地元の子供たち

いる日本の旅行会社代表のネパール人が現地でNPO活動(ESODEC)を立ち上げ、ネパール教育社会開発センター)を立ち上げるともあり、当初から援助先の学校を選んでもらっている。

代協からの資金援助は受けていないが、理事をはじめとする代理店有志の協力を得ている。「代協旗と日章旗を掲げることができればPR



キスなどの文具やタオル、先生・スタッフには玉が手渡された。

「子供たちの喜ぶ顔を見ると、遠くまで足を運んだ疲れも吹き飛びます。今後の予定は具体的に決まっていますが、3年後あたりに行きたいですね」と結んだ。



感謝状

ダウンジャケットを購入した。また、子供たちにはお年玉として100ルピー(1ネパールルピー約1.2円。現地の高級ホテルの大卒従業員の給与は月5000円程度)を袋に入れて用意した。

今回の訪問では、当初日本人4名の予定が最終的に黒石会長単独での渡航を余儀なくされるハプニングもあったが、12月26日にネパールの首都カトマンズを経由し、拠点となるボカラに無事入った。そして翌早朝にNPOのD.M.ヒラチャン会長らスタッフとともに車に向かい、目的のルトーカ小学校には10時過ぎに到着した。



ネパールの地元新聞に掲載!!

©GORKHAPATRA DAILY (左、翻訳)
日本から子供たちにプレゼントが届きました！
日本人の黒石光寿さんが、シンドゥリ郡クセソールドゥンザンタリムポートにあるルトーカ小学校の子供たちにボールペン、タオル、お年玉のプレゼントと机とイスの寄付、トイレを新しくすることを発表しました。

©RAJDHANI DAILY (右、翻訳)
ネパールの小学校に援助が届きました！
シンドゥリ郡クセソールドゥンザンタリムポートにあるルトーカ小学校に勉強している子供たちに日本人が学校に援助をしてくれました。この学校は、カトマンズから遠く貧しい村にあります。
この村にINSURANCE AGENCY ASSOCIATIONの会長黒石光寿さんとESODECの会長D.M.ヒラチャンさんが来りました。日本から来た黒石さんが子供たちにボールペン、お年玉、タオルをプレゼントしました。そして学校の教室に机、イス、トイレを作ってくれようことを発表しました。この小学校は、ネパール政府の学校ですが、国からも援助がないため、学校の運営をすることも大変な状況です。学校には、村の貧しい子供たちが65名勉強しています。今までESODECもネパールのいろいろな村に学校を建てたり、奨学金を子供たちに渡したり、協力しています。これからもネパールのために協力していきたいと言っていました。